

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	39	学校名	静岡県立静岡農業高等学校	校長名	新林 章輝
------	----	-----	--------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

静岡県中部地区の3系列、5学科を有する全日制農業科専門高校及び静岡県の農業教育中心校として、「真実・自律・友愛」の校訓のもと、常に「生徒と共に、地域と共にある」ことを目標に、実践的な農業教育を推進し、感謝の気持ちや思慮深さ、チャレンジ精神や創造力・想像力・実践力を持ち合わせた地域でリーダーシップが取れる人材の育成を目指す。
--

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
「農こそは国のもとなり」の理念のもと、知る力、活かす力、応える力を発揮できる人材を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 心豊かな人間性と基本的な生活習慣を身に付け、求めて学ぶ姿勢の育成 ・ 農業教育を基盤とした学びと、各学科における専門的知識と技術・技能の習得 ・ これからの社会を生き抜く力と地域社会に積極的に関わり、貢献するための資質・能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した授業による基礎学力保障とともに、実践的な実験・実習 ・ 自己目標の明確化と自己実現のための3年間を見通したキャリア教育 ・ 学びを生かすための積極的な地域交流・地域貢献等の多様な学びと体験の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の校訓及び教育目標に共感し、地域社会に貢献する高い志を持つ生徒 ・ 農業・環境・食品等に対する興味・関心を持ち、主体的に学ぶ生徒 ・ 基礎学力を有するとともに、実験・実習等に積極的に取り組む生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 基本的な生活習慣を確立するとともに、教養力を高め、心豊かな人間性を育む教育の推進と安全・防災意識の高揚に努める。
- イ 求めて学ぶ姿勢を育て、農業教育を基盤とした学力向上と専門的知識・技術の習得とともに、プロジェクト学習等の特色ある充実した授業により、魅力ある学校づくりを推進する。
- ウ 産学官及び地域連携・地域貢献等の教育活動を推進することで、コミュニティスクールとして地域に信頼される学校を目指す。
- エ 学系及び学科、学年、分掌等の連携を推進し、生徒指導及び教育相談、キャリア教育等の充実を図るための体制を構築する。
- オ 学校行事、部活動、課外活動等に主体的に取り組む生徒の育成を図る。
- カ ICT活用及びネットワーク等の環境整備・充実とともに事務処理等の効率化を図る。
- キ 経営計画に沿った教育活動の充実のために、良好な学習環境の整備・充実を図る。
- ク 農業科関連部門において、望ましい農業生産工程管理及び食品衛生等の管理を確立する。
- ケ 教職員の働き方改革に取り組み、ワークライフバランスを推進する。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

No.	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
1	豊かな人間性を育む教育と安全・安心な教育活動の推進	・ 学校・家庭・地域が連携した保健・相談活動及び交通安全、災害発生を想定した防災訓練等を機能させ、関係機関等と連携を図り安心・安全で充実	・ 生徒会とPTA安全委員が合同で行う街頭指導の実施。 ・ 外部団体と連携した防災訓練の実施。 ・ 地域防災訓練参加率 75%	総務

<p>1</p>	<p>豊かな人間性を育む教育と安全・安心な教育活動の推進</p>	<p>した教育活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員による生徒への声掛け指導を継続的に実施し、さわやかな挨拶、正しい言葉遣い、整った身だしなみを身に付けさせる。 読書や芸術鑑賞等の体験を通して豊かな知識、教養を身に付ける。 朝読書の実施。 図書館だより、図書館報の発行。 朝食摂取率を高めることで生徒の安全で活発な活動に繋げる。継続的に指導・呼びかけを行う。 新入生全員に対する1分間カウンセリングの実施。 スクールカウンセラーとの連携。 全学年の生徒に対して学校生活に関するアンケートの実施。(1, 2 学期) 相談室の常時開放。 5 S 活動を基本とし事故防止や安全、衛生指導を徹底した実習環境整備を行う。 	<p>以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な登校指導、挨拶運動を年間 20 回以上実施。 身だしなみ検査初回合格率の全校平均 85%以上。 全校生徒対象の芸術鑑賞教室を9月に実施する。 年間貸し出し数を全校で 2400 冊、一人当たり 4 冊以上。 図書館だよりを年 10 回、図書館報を年度末に発行する。 朝食摂取率年間平均 97%以上。 学校生活を含め不安を感じている新入生に対して、安心して高校生活を送れるように早めに対策を講じる。必要に応じてスクールカウンセラーとのカウンセリングを実施。 体調面から心身の状態を把握し必要な生徒には早めに面談等を実施し見守る。 相談したい時にいつでも相談できる体制を整える。 関係法規を遵守し、日常的及び定期的(年5回)に安全点検を実施。 	<p>生徒</p> <p>図書</p> <p>保健</p> <p>教育相談</p> <p>農業</p>
<p>2</p>	<p>生徒の学ぶ意欲を高め、論理的、科学的思考力の育成と特色ある教育活動の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストと計算力テスト、英単語テストを年間 6 回ずつ実施する 学校の現状に対応した教育課程およびシラバス、年間指導計画の作成と実 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、計算力、英単語テストの計画的な実施。 学級減など、教育環境の変化に対する対応。 	<p>教務 教科</p> <p>教務</p>

2	<p>生徒の学ぶ意欲を高め、論理的、科学的思考力の育成と特色ある教育活動の展開</p>	<p>施、観点別評価の計画と実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開するとともに、一人一台端末を前提とした、ICT活用教育をさらに推進していく。 ・学校農業クラブ活動を通して、学校の特色を活かし、地域に密着した実践的で魅力ある教育活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間において、BYODを含むICTを活用した授業を年2回公開。 ・年間の研修テーマとして「授業改善のためのICT研修」を継続し、県教育センターと連携して、教員の応用力向上のための研修を含み、同様の研修を年2回以上実施。 ・各種発表、競技会県大会において複数入賞。 ・農業鑑定競技会全国大会において入賞5件以上。 	<p>研修情報</p> <p>農業</p>
3	<p>キャリア教育の充実と生徒一人ひとりの進路実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい勤労観や職業観を育成するため、3年間を見通した進路ガイダンスを、各学年で計画的に実施する。 ・生徒が、希望や適性に合った進路決定ができるよう、学年、学系、教科と連携して支援する。 ・キャリア教育に関わる情報を生徒と保護者に発信する。 ・「目指す生徒像」に掲げる力を農業教育の様々な場面で発揮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における進路ガイダンスを、2回以上実施。 ・就職、進学決定率98%を達成する。 ・生徒と保護者の端末へ情報発信を5回以上。 ・「アグリマイスター顕彰制度」申請者年20人以上。 ・日本農業技術検定2級合格10名以上。 	<p>進路</p> <p>農業</p>
4	<p>学校行事、部活動、課外活動等に主体的に取り組む生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、部活動等での生徒の積極的な取組を学校全体で支援する。 ・生徒会、委員会、部活動で明確な目標を立て、目標達成に向けた着実な活動を推進する。 ・学校行事、部活動等での生徒の積極的な取組を学校全体で支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAと連携した教育講演会の開催。 ・静農祭催事協力の活性化。 ・部活動県大会以上の壮行会実施。 ・部活動の目標と活動成果を共有する地域連携活動の実施。 	<p>総務</p> <p>生徒</p>

様式第1号

5	産学官や地域との連携・貢献活動等による、農業高校魅力化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学系や学科、全校を挙げて取り組む交流活動や奉仕活動を計画的かつ積極的に推進する。 ・大学や産業界・行政機関等地域と協力し、地域貢献・地域連携活動を推進する。 ・学習指導要領に基づき、課題解決型プロジェクト学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭・農場販売で積極的な地域交流を行う。 ・各学系・学科で講師招請(年15回以上)実施する。現場見学、交流活動を各学系で実施。 ・全ての専門科目において端末(農業電子図書館等)を活用したプロジェクト学習を実践。 	生徒 農業
6	学校の情報化と校務処理等の合理化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページやSNSを利用した活発な情報発信を推進する。 ・総務事務の集中化に向け、分掌会議等への参加による業務把握と合理化を推進できる資質を向上させるための研修機会の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等は積極的にホームページにアップする。(週1～2回以上を目安とする) ・SNSを個人情報保護に配慮しつつ、適切かつ積極的に活用する。 ・事務サイドからの業務見直し提案1件以上。 ・校外研修への参加 各人1回以上。 	研修情報 事務
7	教職員の働き方改革とワークライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に関する国・県の取組を踏まえ、達成可能な目標を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏・冬休み期間に、休暇取得促進日を設定。 ・入試期間に合わせた、セキュリティ解除厳禁日の設定(計4日)。 ・定期テスト2日目に、定時退勤日を設定。 	総務
8	教育予算の効果的運用と施設・設備の計画的な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に基づいた効率的な予算執行。 ・法令を遵守した適切な会計処理。 ・長期的視点を持った適切な施設・設備の維持管理。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営予算の執行率95%以上。 ・監査、検査等での指摘件数0件。 ・施設・設備の不備による事故発生0件。 	事務

(記入上の留意点)

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。